

# 指定管理者制度導入施設評価票

評価対象年度	令和5年度		
施設名	秋田県自然体験活動センター	設置年	平成 19 年
所在地	秋田県山本郡八峰町八森字御所の台53-1		
指定管理者	八峰町長		
県所管課	生涯学習課	社会教育・読書推進チーム	

## 1 施設の概要

設置目的	豊かな自然との触れ合いを通じて行う体験活動その他の体験の機会を提供し、もって青少年の心身の健全な発達を図るとともに、県民の生涯学習の振興に資することを目的として設置する。					
県の施策上の施設の位置付け	新秋田元気創造プランや各分野の個別計画等における施設の位置付け・目標 新秋田元気創造プラン 重点戦略【戦略6 教育・人づくり戦略】 〈目指す姿4 豊かな心と健やかな体の育成〉 施策の方向性① ・規範意識と自他を尊重する心を育む教育の推進(体験活動の実施) 新秋田元気創造プランや各分野の個別計画等における目標を達成するための取組として施設に求められているもの 青少年の自然体験活動の機会を提供し、青少年の心身の健全な発達と県民の生涯学習の振興に資する施設として位置づけられている。					
施設の面積	敷地面積: 7,248㎡ 建築面積: 1,660㎡					
主な設置施設						
指定管理業務の内容	料金制	有(利用料金併用制)				
	料金設定	宿泊料金1,980円～、多目的ホール等1時間550円～、体験活動料金はそれぞれによる。				
	サウンディング実施対象施設※	×				
	指定期間	令和4年4月1日		～ 令和9年3月31日		
	営業期間・時間	年中無休(年末年始除く)・受付時間8時30分～17時15分				
		① 使用の許可、使用の許可の取り消し並びに使用の制限及び停止に関する業務 ② 施設及び設備の維持管理に関する業務 ③ 体験活動の機会の提供に関する業務ほか				
自主事業の内容	○白神ガイドの会と提携した自然体験活動 ○食づくりや各種工作体験活動 ○白神の海と山のわんぱく夏塾、親子で体験隊ほか					
直近3年の年間利用者数	R3	3,812 人	R4	4,024 人	R5	4,886 人
直近3年の年間利用収入	R3	6,547 千円	R4	7,747 千円	R5	8,507 千円
直近5年の収支決算(単位:千円)						
	R元	R2	R3	R4	R5	
収入計	14,457	6,574	10,083	11,253	12,025	
利用料金収入	11,302	2,949	6,547	7,747	8,507	
指定管理料	3,057	3,575	3,461	3,442	3,442	
その他収入	98	50	75	64	76	
支出計	44,941	36,793	46,036	40,644	43,253	
人件費	31,414	24,982	34,002	25,817	26,485	
光熱水費	2,504	1,887	2,371	3,167	3,558	
修繕費	528	934	518	1,474	2,286	
外部委託費	2,390	3,098	3,341	3,349	4,046	
その他経費	8,105	5,892	5,804	6,837	6,878	
差引	▲ 30,484	▲ 30,219	▲ 35,953	▲ 29,391	▲ 31,228	

※単年度維持管理・運営費が1億円以上の公募施設について、民間事業者の意見を参考に運営手法や公募要件を検討するため、指定期間終了の3年前にサウンディング(官民対話)を実施する。

## 2 観点ごとの評価

< 観点 I > 施設の設置目的(施設の目指す姿)の達成に関する取組

【ポイント】

施設の設置目的(施設の目指す姿)を達成するための取組がなされ、その効果があったか。

○指定期間における運営方針・施設の利用目標

--

○目標の設定(毎年度、県と指定管理者が協議の上、業務計画書に定める目標)

令和5年度の目標	宿泊利用者数3,100人を目標とする。
----------	---------------------

○指定管理者による実績報告

令和5年度の実績	実績	2,737人	達成率	88.3%
	具体的な取組とその効果	一般利用を含む全体では、宿泊2,737人(前年比11%増)、日帰り2,149人(前年比37%増)の利用があった。 また、セカンドスクール利用に関しては、1月に、利用経験のある学校に利用案内を送付し、5月から9月末までの利用計画を策定。その結果、59校、宿泊1,690人、日帰り173人の利用があった。		
直近3年の実績	年度	R2年度	R3年度	R4年度
	目標	3,500人	2,500人	3,100人
	実績	520人	1,946人	2,458人
	達成率	14.9%	77.8%	79.3%
令和6年度の目標(設定根拠)	目標	宿泊利用者数3,100人、日帰り利用者数3,100人		
	設定根拠	令和元年度並の宿泊者3,677人を期待するが、少子化等を考慮し令和元年度実績の85%程度を目標設定数値とした。(3,677人×85%=3,125人≒3,100人)		

※指標が複数ある場合は欄を適宜追加すること。

< 観点 I > の評価

	評価者	評価	コメント
評価欄	指定管理者	B	セカンドスクールに関しては、前年比4校減・利用人数で276人減だが、一般含む全体利用では、宿泊者数279人増、日帰り利用583人増となり、新型コロナの終息に伴うものと見込まれる利用者数の増加となった。今後は、利用校に対し継続利用をお願いするとともに、未利用の学校にセンター利用の企画・提案並びに、PR広告やSNSの活用等情報発信に努め、利用促進を図る。
	県(所管課)	B	宿泊者について、令和5年度の目標は達成できなかったが、前年度比約300人増とコロナ禍からの回復が見て取れる。今後も利用者層の拡大に向け、各種媒体を活用した広報活動やニーズに応じた主催事業の実施・充実に努めていただきたい。

【評価基準】次の基準により評価。基準によらず各区分に相当すると認められる場合は、コメント欄に理由を付すこと。

また、施設の設置目的(施設の目指す姿)を達成するための、指定期間における運営方針・施設の利用目標について、指定期間開始年度から評価対象年度までの達成状況をコメント欄に記載すること。

A: 目標達成(数値目標の場合は100%以上)

B: A及びC以外

C: 目標達成に向けて改善が必要(数値目標の場合は80%未満)

<観点Ⅱ> 施設の有効性(利用者の満足度)の向上に関する取組

【ポイント】

サービスの質を維持・向上するための具体的な取組がなされ、その効果があったか。

○指定管理者による実績報告

利用者満足度 令和5年度 の実績	実績	98.9%		
	具体的な 取組と その効果	施設内では毎日の清掃、特に利用前後の掃除の徹底と消毒を欠かさず、外環境では芝刈、除草、清掃をこまめに行った結果、清掃面での満足度は100%であった。設備を含む施設本体と体験用具等についても、在庫管理やメンテナンスを定期的に行って、安全確保ができています。		
利用者満足度 の状況 (直近3年)	R2年度	R3年度	R4年度	
	99.5%	98.4%	94.0%	

<観点Ⅱ>の評価

評価欄	評価者	評価	コメント
		指定管理者	A
県 (所管課)		A	日々のメンテナンスにより、敷地内ともに清潔な印象が保たれている。接客は、職員間の研鑽によって向上が見られる。90%を超える高い満足度は、職員のサービスに対する真摯な取組の成果と考える。引き続き、利用者のニーズを丁寧に捉えつつサービスの質の向上に取り組んでいただきたい。

【評価基準】次の基準により評価を行う。基準によらず各区分に相当すると認められる場合は、コメント欄に理由を付すこと。

A: 満足度80%以上 B: A及びC以外 C: 満足度60%未満

<観点Ⅲ> 効率性の向上等に関する取組

(1)経費の低減

【ポイント】

施設の管理運営(指定管理業務)に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組がなされ、その効果があったか。

○指定管理者による実績報告

令和5年度 の実績	経費の 低減実績	人件費含む支出総額は42,775千円となっており、令和4年度と比較し2,131千円の増となっている。人件費、光熱水費、修繕費、外部委託費が、前年度対比で増加となっている。
	具体的な 取組と その効果	体験に必要な素材(貝殻、小枝等)は、スタッフが海山で採集している。また、用具等の在庫管理を適切に行っており、ある程度まとまった購入にて経費の削減に努めている。清掃パートはいるが、館内清掃、部屋セットなどは全職員で行っている。しかし、宿泊数増加に伴い、施設管理費の増、老朽化に伴う修繕費の増、光熱費の増があるため、前年度より支出増となっている。

※費用の総額では効果が計れない場合は、例えば利用者1人当たりの単価を算出する方法等も考えられる。

(2)収入の増加 ※指定管理料制施設を除く

【ポイント】

収入を増加するための具体的な取組がなされ、その効果があったか。

○指定管理者による実績報告

令和5年度 の実績	収入の 増加実績	利用料収入は、令和4年度と比較し760千円増の8,507千円となった。
	具体的な 取組と その効果	海での活動ができる希少な施設としての役割を果たしている。セカンドスクール利用では、1日に複数校を受入し、海と山などフィールドを分けて実施しているとともに、作業や食事時間などを分散調整し、活動の重複を防いだ上で、学校の要望に極力対応している。また、地域の民間事業者には、飲食や入浴等の受注機会を提供し、828万円程の経済効果をもたらしている。

<観点Ⅲ>の評価

	評価者	評価	コメント
評価欄	指定管理者	B	宿泊・日帰り利用者数の増に伴い、収入は増加しているが、固定費(光熱水費等)の増、修繕費の増加により、経営的には相殺されている現状である。課題として、新規学校の開拓やセカンドスクール以外の利用者増を図ることが必要であると考えている。
	県(所管課)	B	支出、収入ともに増加しており、支出増については施設補修等の増加や電気料金の高騰等の要素が考慮される。引き続き、サービスの質の維持、向上を図りつつ経費の見直しを進めていただきたい。

【評価基準】 次の基準により評価を行う。基準によらず各区分に相当すると認められる場合は、コメント欄に理由を付すこと。

A: (1)経費の低減、(2)収入の増加とも前年比で5%以上改善

B: A、C以外

C: (1)経費の低減、(2)収入の増加とも前年比で5%以上悪化

<観点Ⅳ> 公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取組

【ポイント】

施設の管理運営(指定管理業務)の適切な実施に向けた具体的な取組がなされ、その効果があったか

○指定管理者による実績報告

令和5年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人員配置               <ul style="list-style-type: none"> <li>◆施設管理に必要な資格等                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・甲種防火管理者…1名資格あり、危険物取扱者…1名資格あり(乙種第四類)、食品衛生責任者…3名資格あり(表示は1名)、普通自動車中型限定解除…3名資格あり(1名は大型)</li> </ul> </li> <li>◆職員配置                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・町側…正職員: 所長1名、研修企画・総務係長1名、会計年度任用職員: 作業員、用務員通年各1名、季節(4~10月末)作業員1名、用務員2名、清掃パート: 3名、パート日直2名</li> <li>・県側…派遣社会教育主事1名、研修員1名</li> </ul> </li> <li>◆宿直                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハタハタ館に委託</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○職員の資質向上               <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎朝のミーティングによる挨拶、日程等の確認</li> <li>・研修会等への参加</li> </ul> </li> <li>○地域や関係団体等との連携               <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営協議会での意見交換を年1回以上開催</li> </ul> </li> <li>○安全対策               <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験活動マニュアルの徹底と見直し、改善の実施</li> <li>・シーズン前の安全確認と事前研修の実施</li> <li>・利用者への食物アレルギー調査と食事提供先との調整</li> </ul> </li> <li>○危機管理等               <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急連絡先リストの共有</li> <li>・消防訓練年2回実施</li> </ul> </li> </ul>
--------------	--

<観点Ⅳ>の評価

	評価者	評価	コメント
評価欄	指定管理者	B	施設の管理運営に必要な資格については要件を満たしている。セカンドスクール利用は安全・安心が第一のため、事前の確認と事後の評価を行い改善を行っている。
	県(所管課)	B	人員の配置は適切であり、日々の業務がスムーズに遂行されている。運営協議会では施設の運営に関して意見交換が行われており、協力団体との関係も良好である。今後も管理運営に対する改善に取り組んでいただきたい。

【評価基準】 A: 順調(改善点なし)、B: 概ね順調(重大な問題点なし)、C: 改善が必要(重大な問題点あり)

県(所管課)の評価においては、モニタリング結果を踏まえて評価を行う。

**【県の施策達成に向けた県所管課の施設運営に対する考え方】**

※全施設記載

○県の施策の達成状況(施設を運営することで、県の施策がどの程度達成されたか等)

- ・セカンドスクールの利用が回復しつつあり、豊かな人間性を育む教育活動の充実に寄与している。
- ・一般向けイベントを開催し、県民だれもが学ぶことが出来る「生涯学習施設」として機能している。
- ・地域に密着した施設であり、地域の関係人口の創出に寄与している。

○施設運営の課題

- ・施設の経年劣化による維持管理費が増加している。
- ・一般利用客が伸び悩んでいる。
- ・冬期間の集客に課題が存在する。

○今後の方向性(県の施策の達成状況や課題を踏まえて、今後所管課としてどのように対応していくか等)

- ・指定管理者の職員間との情報共有により、問題箇所の早期把握に努める。
- ・指定管理者が、社会動向や利用者のニーズを把握した企画の立案、運営が出来るように支援していく。
- ・指定管理者が、立地条件を生かした冬期間の企画や、冬期間を中心に積極的な情報発信に取り組むことが出来るよう支援していく。